

2011年9月25日

「神の喜ばれる教会」エペソ 1：15～23

I 神の恵みを忘れず、数え、心から、神に感謝する教会。何一つ、当然、当たり前の恵みはありません。「主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな」詩103：2。「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある…神のなさることは、すべて時にかなって美しい」伝3：1、11。出来事は偶然に起こるのではありません。なぜなら、それぞれの教会には神の明確な計画があり、すべてのことは最初から神が調整されています。私たちには、「神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない」（伝3：11）ですが。実はそれも私たちへの神の憐みです。先のすべての試練がわかれば、押しつぶされます。しかし、私たちが、生きるのは、一足一足を主と共に生きることです。明日の事は誰もわかりません。神は「初めから終わりまで見通し」、歴史に計画を持ち、「時と季節」を知っておられます。宣教師が与えられ、交代するのも、牧師が立てられるのも、土地と会堂が与えられるのにも、それぞれの教会に神の御計画があります。東苗穂の10条2丁目のこの土地と建物は、神が与えて下さったのです。それぞれの教会に神の奇蹟のドラマがあります！神は、1999年12月に今の建物と土地（178.85坪）を4、200万円で購入するように導かれました。宣教開拓と同時に会堂を購入する例はなく、大きな恵み、また祈りを必要とする大きな靈的なチャレンジです。2000年1月、北洋銀行ローン3,300万円（800万円は献金があり）、OMF・J E C A共同基金より130万円借入、北洋ローン返済開始。開拓が始まったばかりで月々20万円以上の返済（10周年記念誌）。どんなに多くの祈りと尊いささげものがあったことでしょう。責任者と当時の方々の祈りはどんなに真剣だったことでしょう。私は、大麻教会時代、会堂の他に、神が奇跡的に駅に最も近い150坪の土地を3,750万円で与えられた時（奇しくも同じ1999年12月）、北洋銀行からお借りし、連帯保証人となったこと、その重荷、ローンを完済した時（3年前）の解放感、一つ一つを経験しました。ライトハウス教会も、今まで、国内外の多くの方々の尊い献金がささげられ続け、現在は、銀行のローンは終え、OMF・J E C A共同基金への返済（4百数十万円。今年6月に外壁修理の為にお借りした170万円を含めて）がありますが、数えきれない恵みの中で、教会の会堂、土地が与えられている恵みを心から感謝したいと思います。雨漏りも直り！礼拝堂のグラフをご覧ください。神の恵みと多くの捧げものを示すものです。毎週、心から神を礼拝し、互いに祈り合い、交われる会堂が与えられているのは、当たり前、当然のことでは決してありません。神の大きな恵み、奇跡的な恵みなのです。駐車場、階段、会堂、椅子、テーブル、キッチン、トイレ、壁（新会堂を建てるとき壁の色で分裂しないように祈ったものです。会堂建築前や後に分裂することもあります。リーダーが倒れることもあります。常に祈りが必要です）一つ一つを本日からもう一度感謝しつつ会堂を用いたいと思います。もし皆さんが、会堂建築中の教会に導かれたら、「私の小さなささげものも、会堂の柱の一部に用いてください」との祈りが与えられるのです。私たちは、この11年の教会の恵みを感謝し、残りの返済の為に、心から神と教会と人々を愛して「ささげる恵み」にあづからせていただきたいと願います。

II 社会的責任を果たす教会。「神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。…あなたがたは、だれにでも義務を果たしなさい…税を納めなければならない人には税を納め」ローマ13：1、7。日本には、宗教法人制度があります。ライトハウス教会は、現在、〇

MFの宗教法人をお借りして銀行や郵便局の通帳を作らせていただいている状態です。4月に牧師に就任してから、通帳の名義を教会名と代表堀田修一へと名義変更しましたが、これでは、もし私が急に召天した時に難しいことが起こる可能性があります。当教会が、必要な書類（規則や活動実績資料他）を用意し道の所轄庁に提出し、宗教法人格を取得できれば、個人名義でなく、教会の名義で礼拝施設の所有権移転登記や通帳も教会の名義にできます。また、不動産取得税、固定資産税等が非課税とされます。宗教法人となる準備の為にお祈りください。

Ⅲ 私たちに大きな愛と恵みを満たし続けておられる神を喜び心から礼拝する教会。「教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」エペソ1：23。教会の建物は、教会堂です。教会とは、キリストのからだ（かしらが主で手足は私たち）であり、神の家族であり、いっさいを満たす方が満ちておられるところです。特に礼拝、賛美、祈り、交わりの中に喜んで臨在されます。大人も子供たちも共に礼拝する礼拝を神は心から喜び、神は恵みを注がれます。礼拝に出席した週とできなかった週の恵み、力の違いを私たちは体験的に知っています。何をさておいても、主が充満しておられる教会に、身を置くことは計り知れなし大きな恵みです。また、教会に祈られた礼拝メッセージで、教員は養われ、求道者や初めての方は福音を聞けるのです。礼拝の祝福の為に日々祈りましょう。また、教会は、教員が靈的に養われる（礼拝、メッセージ、ディボーション、祈り、交わり）、満たされることと世の人々に福音を伝えることの両方、バランスが神からの使命です。但し、福音は、関係作りがないまま伝えることはつまずきとなります。たとえば、初めて会う人に最初から「あなたは罪人です。主を信じて下さい」と言っても相手はびっくりするだけです。私もパウロも関係作り（へりくだり、愛を示し仕えられた）を大切にして福音を伝えられました。私たちも、神が出会わされた人々を愛し、仕え、関係作りをしつつ、祈りながら福音を伝えることができるよう祈りましょう。